

神 示

(※望云館建物の清めの儀に当たり、表された神示)

「神魂の力」宿りし神の教会 迎えしこれからの姿は 輝き光る
人がつくる文化 文明も一巡し

「生きる」 真実の姿を 世の人々は探し始めんとしている
今の時^{時代} 欠くことならぬ存在 環境こそが

神魂宿る神の教会なのである

長い歳月^{さいげつ} 流れ 過ぎて

人々が「神の真実」を求めるとき^{時代}を迎えている

供丸齋 供丸姫 使者二方の救世の思いが

「今」^{時代}に迎えられんとしている

神は 直使生誕の地に 神示教会 救世の証しを現さん

その名 「望会館」

心迷い 悩み 苦しむ人の心に 「希望」を与えん

希望なくした人の心は 病むばかり

人に人の心は支えきれず 物で人の心は救えない

生きる「希望」——神魂に重なりし人の心^魂は強くなる——

人物に触れ 生きがいを持つゆえに

生きる「夢」 生き抜く「支え」が 心底持てるのである

「希望の光」^{みち}は 神魂の時代を迎え

人の心を支える「真実の光」^{みち}へと その力を増したのである

神示教会は

この望会館の完成をもって 世に大きく出てゆくであろう